

# 畜産みやぎ

題字  
宮城県知事 村井嘉浩  
発行所  
仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号  
一般社団法人 宮城県畜産協会  
電話 022-298-8473  
編集発行人  
佐野和夫  
印刷所  
(株)東北プリント



岩手競馬 水沢競馬場 (令和7年11月25日)

## もくじ CONTENTS

会長年頭挨拶	2	畜試便り	9
知事年頭挨拶	3	農業大学校生の抱負	10
経営効率化を加速させる「畜舎特例法」の 浸透と実績	4	令和7年度肉用牛研修会開催のお知らせ	10
生産資材価格高騰に関する畜産経営体への 支援について	5	馬事畜産振興の活動報告	11
2026年度・2027年度ミルクキャンペー ンキャラクター決定!!	6	価格安定対策事業の発動状況について	11
酪農施設の暑熱対策モデル事業を実施しました	6	賀春	12
衛生便り	7		
令和8年度アカバネ病予防接種の実施について	7		
牛の冬期管理について	8		



## 〈会長年頭挨拶〉



一般社団法人 宮城県畜産協会  
会長 佐野和夫

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、全国各地で大規模な火災が多発し、カムチャツカ半島付近の地震や青森県沖の地震による津波被害も確認されました。全国的な熊被害も重なり、災害もしくは災害と呼べる様な出来事が多くありました。被害にあわれた方々には心よりお見舞いを申し上げます。

また、世界的な物価高騰は依然として高止まりが続いており、さらに令和5年の不作に端を発した米価格の高騰は、新米が出荷されても収まらず、なお高騰が続いております。畜産業においても収入の伸び悩みに加え、物価の高騰はそのまま生産費の高騰となり、畜産全般で非常に厳しい経営状況が続いています。

このような中、全国肉用牛枝肉共励会において名誉賞を受賞するなど「仙台牛」は高い評価をいただいており、本県出品牛の好成績も伝えられています。また、10年ぶりに全日本ホルスタイン共進会が北海道で開催されました。宮城県からは4頭が出品され、そのうち1頭は優等賞4席を受賞しました。出品者の皆様方の日ごろのご努力に敬意を表すると共に、素晴らしい成績を認められました受賞者の方々には改めてお祝い申し上げます。

しかしながら、肥育牛経営安定対策としての牛マ

ルキンの交付は依然として毎月発動し、生産費の高騰による肉用牛経営の厳しさが伺われます。

また酪農経営においては、今年度のプール乳価は上昇傾向で推移し、収入面では改善が見られましたが、外的要因による生産費高騰は変わらず続き、戸数、頭数、ともに昨年同様減少傾向となっており、低迷を続ける牛乳の消費等により依然として厳しい状況が続いています。

養豚経営については豚マルキンの発動には至らず、生産費高騰よりも枝肉相場が上回っていたことが伺えます。

家畜伝染病については、野生イノシシの豚熱感染が未だに県下全域で確認されており、十分な警戒が必要です。高病原性鳥インフルエンザによる殺処分羽数は昨シーズン同期と同規模となっていますが、件数は低調で推移しておりこのまま被害が少なく済むことを切に願っております。また新たに監視伝染病に指定されましたランピースキン病は終息に至りました。生産者や関係各位のご尽力に感謝すると共に、より一層の飼養衛生管理の徹底をお願いいたします。

このような情勢の中、本協会といたしましては、国や県の関係機関と連携し、生産コスト削減や経営基盤の体質強化、並びに畜産物消費拡大のための各種支援対策をはじめ、これまでどおり経営支援、価格安定対策、家畜衛生対策、家畜改良の諸事業を実施して参りますので、関係機関及び会員の皆様方のさらなるご支援、ご指導を賜りたくお願い申し上げます。

今年の干支は午年、丙午（ひのえうま）に当たります。丙は太陽や火を表し非常に強いエネルギーを意味し、午は前進、成功、情熱を意味するそうです。大きな前進、成功の年となりますよう祈念いたしますと共に、皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

## 〈知事年頭挨拶〉



宮城県知事 村井嘉浩

明けましておめでとうございます。新しい年を迎えるに当たり、県民の皆様の御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。

昨秋に行われた知事選挙の結果、引き続き県政運営を担わせていただくことになりました。6期目という県政史上初めてとなる重責を前に身の引き締まる思いを新たにしたところであり、謙虚な気持ちを忘れず、これまで以上に現場に足を運んで、県民の皆様との対話を重ねながら、様々な課題の解決に全力でまい進する所存であります。

昨年は、第48回全国育樹祭や第61回献血運動推進全国大会が本県で開催され、秋篠宮皇嗣同妃両殿下に御臨席を賜りました。若い世代の皆様が、森を守り育てる取組や命を支える活動に関心を持ち、積極的に関わる姿は未来への大きな希望であり、これらの大会を通して、東日本大震災からまもなく15年となる宮城の姿を広く発信することができました。今後も被災地の実情に応じたきめ細かなサポートを継続し、全ての県民の皆様に復興を実感していただけるよう、しっかりと取り組んでまいります。

畜産分野における昨年一年間を振り返りますと、令和7年度全国肉用牛枝肉共励会において、栗原市の鈴木教一さんが名誉賞を受賞したほか、第16回全日本ホルスタイン共進会では、丸森町の有限会社半澤牧場が本県として過去2番目の成績と並ぶ優等賞

4席を受賞するなど、全国規模の大会における高成績を通じて、本県の酪農や「仙台牛」の持つブランド力を全国へ発信することができました。

一方で、高病原性鳥インフルエンザが全国各地で発生するなど、家畜防疫をとりまく状況は一層厳しさを増しております。本県の畜産を守るため、生産者の皆様におかれましては、引き続き飼養衛生管理基準の遵守徹底について、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、本県はこれから本格的な人口減少の局面を迎える中、地域経済・社会の持続性を確保し、更なる変革を進めていくことが求められています。こうした大きな課題に向き合いながら、大規模化・多様化する自然災害への備えや依然として続く物価高騰にも対応していくため、「新・宮城の将来ビジョン」に掲げる「宮城の将来像」実現に向けた取組を着実に推進してまいります。

誰もが希望を持ち、安心して暮らせる、活力にあふれた新しい宮城を創造していくことを目指し、今年は「人口減少対策」に重点的に取り組んでまいります。特に、首都圏への流出が続く若者や女性から選ばれる、魅力ある地域・職場づくりを進めるとともに、子ども・子育てを社会全体で支える環境の整備、半導体などの産業誘致による質の高い雇用創出を推進いたします。また、労働力人口が減少する中でも、産業や行政サービスを維持向上させていくには、DX（デジタル・トランスフォーメーション）の活用が不可欠であり、さまざまな分野でデジタル技術の活用を進め、人手不足の解消と生産性向上を力強く後押ししてまいります。

未来へと続く持続可能な宮城県を築き上げるため、畜産・家畜衛生をはじめとした様々な分野に全身全霊を傾けて取り組んでまいりますので、読者の皆様におかれましては、一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

## 経営効率化を加速させる「畜舎特例法」の浸透と実績

宮城県農政部畜産課

日本の畜産業界は、国際的な競争激化や生産コストの上昇といった課題に直面しています。こうした状況下で、畜産経営の持続的な発展と効率化を後押しするため、「畜舎等の建築等及び利用の特例に関する法律」、通称「畜舎特例法」が、令和4年4月1日に施行されました。この法律は、都道府県知事による「畜舎建築利用計画」の認定を受けることで、建築基準法で定められている一部の規定（特に大規模な畜舎の用途・規模制限など）の適用を特例的に除外するものです。これにより、畜産農家は、滞在時間の制限や避難経路の確保といった利用基準を満たせば、迅速かつコストを抑えた施設整備が可能となりました。

畜舎特例法は、現場の声を反映し、より利用しやすい制度とするため、施行後も省令レベルでの改正が重ねられてきました。令和5年4月1日の改正では、畜舎や堆肥舎に加え、「倉庫」「車庫」「貯水施設（水質浄化施設）」「高さが8mを超える発酵槽（付属する制御施設を含む）」が対象施設として追加されました。これにより、資材保管等を含めた経営全体の一体的な低コスト化が図りやすくなり、また、現場の利便性を大きく向上させるための重要な一歩となりました。

施行から約3年が経過し、制度は着実に畜産農家に浸透し、その認定数の増加は全国的に積み上がっています。農林水産省の公表値によると、全国の認定実績は令和7年3月末時点では610件に上るとされています。これは、施設整備を行う際のコストや時間を大幅に削減できるという法のメリットが、畜産農家の経営戦略に不可欠な要素として認識されてきたことを示していると考えます。

宮城県においても27件（61棟）の認定実績があり、本制度の活用が加速しています。畜産クラスター事業（施設整備）などと連携しつつ、地域に根差した養鶏・養豚や、優良な肉用牛・生乳などの生産のための施設整備において、畜舎特例法が活用されています。

県ホームページでは、認定申請に関する手続きや手数料に関する情報を公開し、制度活用に努めて参りましたが、新たに、令和8年度以降に実装予定の「電子申請サービス」の整備を進めています。これにより、認定申請書類等のアップロードの他、手数料の電子決済（クレジットカード又は電子マネー）を行うことも可能となり、更なる利用者の利便性向上を目指しています。

畜舎特例法は、建築コストと時間の削減を可能とすることにより、畜産農家の生産基盤の強化に向けた具体的な行動を強く後押しする法律として、実効性のある投資促進という恩恵をもたらしています。

県としましては、本制度のさらなる活用推進を図り、地域特産物の生産基盤強化に直結させることにより、本県の畜産業が国際競争力を高め、持続的な発展を遂げるよう認定権者の立場から尽力してまいります。

（草地飼料班 山根 了）

### 地方競馬全国協会からのご案内

「地方競馬の馬主になりたい！」という方は地方競馬全国協会までご連絡下さい。

地方競馬の馬主登録制度についてご案内いたします。

なお、地方競馬の馬主情報については、地方競馬サイト（<http://www.keiba.go.jp/>）でもご覧になれます。

（担当：審査部登録課 電話 03-3583-2142）

### 岩手競馬（水沢開催）3月 開催予定表

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
3 月	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火

※開催期間中の重賞レース

・3/15(日) 第28回 駒形賞(ミルクウィーク開催) ・3/22(日) 第51回 あやめ賞 ・3/29(日) 第32回 白嶺賞

## 生産資材価格高騰に関する畜産経営体への支援について

宮城県農政部畜産課

燃料や配合飼料価格等の生産資材の価格は、依然として高い水準で推移しており、畜産経営に深刻な影響を及ぼしております。このため、宮城県では、下記のとおり畜産経営体への支援を実施いたします。

### ①配合飼料価格高騰対策緊急経営支援事業

配合飼料価格は、円安基調の為替相場や不安定な国際情勢等を背景に高騰し、現在もピーク時から低下傾向にあるものの、依然として高止まりが続いています。

このことから、宮城県では、畜産経営への影響を緩和するため、令和7年度についても配合飼料価格購入費の一部支援を下記のとおり継続します。

- ・補助対象期間：令和7年度第1四半期から令和7年度第4四半期まで
- ・補助対象数量：県内で飼養している家畜に給与する飼料のうち、令和7年度第1四半期から第4四半期の配合飼料価格安定制度の契約数量又は購入数量のいずれか低い数量
- ・補助額：令和7年度各四半期分の補助対象数量×補助単価※（上限3,300円/t）  
(第1四半期は既交付額（補助上限2,000円/t）に補助上限1,300円/tを上乗せ交付)
- ※（令和7年度各四半期の配合飼料工場渡価格－令和2年度配合飼料平均価格－国の配合飼料価格安定制度の補てん金及び国の配合飼料価格高騰対策に係る補助金等）×1/4以内

### ②学校給食用牛乳価格据置支援事業

飼料価格をはじめとする生産コストの上昇を受け、今年度8月1日取引分から飲用乳および発酵乳向け生乳価格が1kg当たり4円（約3%）引き上げられました。一方で、学校給食用牛乳向け生乳については、契約期間中の価格改定が困難であることから、8月1日の値上げが反映されておらず、現在も令和7年度当初の契約時と同様の価格が据え置かれている状況です。

このため宮城県では、仮に学乳向け生乳取引価格が8月1日から引き上げられたとした場合に、酪農家が本来受け取ることができる飲用向け生乳価格との差額相当額を東北生乳販売農業協同組合連合会を通じて支援いたします。

- ・補助対象期間：令和7年8月から令和8年3月まで
- ・補助対象者：宮城県内において学校給食用牛乳向け生乳を生産している酪農家
- ・補助額：令和7年8月から令和8年3月までの学乳向け生乳生産量×4円/kg

事業に関するご質問等ございましたら、県の窓口部署までお問い合わせ願います。

①【窓口】宮城県畜産課草地飼料班（直通 022-211-2852）

②【窓口】宮城県畜産課企画管理班（直通 022-211-2851）

（①草地飼料班 楠原 結佳 ②企画管理班 蝦名 由璃子）



## 2026年度・2027年度ミルクキャンペーンキャラクター決定！！

宮城県牛乳普及協会

11月29日（土）にエル・パーク仙台にて、「ミルクキャンペーンキャラクター選考会」を開催いたしました。応募総数25名の中から、書類審査を経て選出された10名による最終選考が行われ、栄えある2026年度・2027年度ミルクキャンペーンキャラクターに選ばれたのは、「金沢 由季さん」と「櫻井 夢亜里さん」です。最終選考会ともあり、出場者それぞれに魅力があり、優劣付け難く、2名の選出に苦慮いたしました。お二人には、来年度から県内のイベントに参加し、牛乳・乳製品のPRを行っていただくようになります。今後とも新ミルクレディーと共に、消費者の皆さんの牛乳・乳製品に対する意識向上を図れるよう、なお一層の普及活動を行って参ります。



（村田 孝志）

## 酪農施設の暑熱対策モデル事業を実施しました

宮城県酪農農業協同組合

宮城県酪農農業協同組合は次年度の本格的な事業実施に向け、11月下旬より県内のモデル組合員6名を対象に無人機（ドローン）を活用した牛舎屋根の高圧洗浄と遮熱剤塗付による暑熱対策の実証事業を実施しました。

通常の有人作業と比較して、高所作業や足場設置が不要なため工期短縮やコスト削減が見込まれ、夏場の牛舎内の温度上昇の抑制により、近年猛暑で生乳生産量の減少が続いている組合員への新たな暑熱対策として効果が期待されています。



（酪農振興課 寺島 慎也）

## 〈衛生便り〉

## 台湾におけるアフリカ豚熱の発生を踏まえた防疫対策の再徹底について

宮城県東部家畜保健衛生所

アフリカ豚熱（以下「ASF」）は「豚」及び「いのしし」が感染する、感染力の強い致死性の家畜伝染病で、ワクチンや治療法はありません。流行地域は、アフリカから、欧州、ロシア、アジアと拡大しており、東アジアにおいては、日本と台湾のみ未発生でしたが、本年10月21日に台湾の飼養豚においてASFが発生し、日本への侵入リスクが一段と高まっています。感染拡大の大きな要因は本ウイルスに汚染された豚肉加工品であり、当該農場では食品残さを給与していたことが報告されています。

本事例を踏まえ、国では水際対策として豚肉加工品の不法持込品の検疫を強化しており、県では、食品循環資源を原材料とする飼料を給与している農場に対して再点検を実施し、不遵守事項が認められた場合には、速やかに改善するよう指導しています。

また、ASFはいのししにも感染することから、全国の自治体において、野生いのししの捕獲を強化し、捕獲及び死亡いのししの検体を用いた遺伝子検査に基づくサーベイランスによる監視体制を敷き、万が一の日本への侵入により養豚業及び畜産業に甚大な被害を及ぼさないよう対策を講じているところです。

当所としましても、引き続きASFの発生防止に努めていますので、農場においては、飼養衛生管理基準を遵守し、農場を囲う柵の設置や定期的な点検等による野生動物の侵入防止対策、農場内・進入車両の消毒及び更衣・履き替えの徹底等により、バイオセキュリティの強化に努めるようお願いします。

(防疫班 土井 敬一)



## 令和8年度アカバネ病予防接種の実施について

一般社団法人宮城県畜産協会

## 【アカバネ病の発生とヌカカの関係】

アカバネ病は、妊娠牛がアカバネウイルスに感染すると、流産・胎児の奇形などの異常産を引き起こす病気で、畜産経営にとって経済損失が大きい病気として知られています。

アカバネウイルスの感染は、吸血性の「ヌカカ」（体長1～2mm程度の微細な昆虫）が関与していることが分かっています。また、「ヌカカ」は、初夏から秋にかけて個体数を増やすための吸血行動が盛んとなり、気温が低くなる晩秋には活動が終息することも知られています。

この「ヌカカ」の生態に相関し、初夏から初秋にかけてアカバネウイルスの伝播が起こり、伝播が起こった年の冬から翌年の春にかけて流産・胎児の奇形、大脳欠損など異常産を引き起こすアカバネ病が発生します。

## 【アカバネ病の予防】

アカバネ病はウイルスによる病気のため、感染してからは治療方法がありません。被害を防ぐにはワクチン接種が最も効果がある予防方法となります。

## 【アカバネ病予防接種の実施】

宮城県畜産協会では、アカバネ病予防接種を推進・実施しています。

- ・接種時期：概ね4月～6月（「ヌカカ」の活動が始まる前）
- ・接種対象牛：妊娠牛や受精（移植）予定の牛
- ・接種料金：2,200円/頭
- ・接種申込：市町村に申込ください  
(大崎地域の和牛は、農業協同組合に申込ください)

## 【予防接種に際してのお願い】

- ・接種時には、生産者の立合いと牛の保定をお願いします。立会いができない場合、ワクチン接種ができないこともあります。また、接種前の牛の健康状態を獣医師にお伝えください。
- ・分娩前後の牛や体調不良牛はワクチン接種のリスク（副反応）が高くなります。接種時期などについては、獣医師に相談してください。
- ・人及び牛の事故防止のため、ご協力をお願いします。

(家畜衛生課 高橋 孝幸)

## 牛の冬期管理について

NOSAI宮城

毎日の冷え込みが厳しくなり、牛の寒さ対策が必要な季節になってきました。不十分な冬期の管理は病気の発生や生産性の低下をもたらします。冬期の管理のポイントを再確認しましょう。

### ① 防寒対策をしましょう

一般的に牛は寒さに強い動物です。しかし、子牛は皮下脂肪が少なく被毛も薄いため、寒さにとても弱く、十分な寒さ対策を行うことが必要です。

子牛は、気温が13°C以下になると寒さによるストレスを感じ始め、発育に影響が出てきます。さらに気温5°C以下の環境では病気の発生が高まります。子牛が快適に過ごせるように以下のような対策を行って、子牛の体感温度を15~25°Cに保つようにしましょう。

対策① 寒風や隙間風などの冷たい風が牛の体に直接当たらないようにしましょう。

※木の板や段ボールでの防風壁の設置や風が入り込まない子牛のスペース作りなどが効果的（子牛のスペースを設ける際は側面3方向を囲うと中の温度が2°C前後上昇してとても暖かくなります）

対策② 清潔で乾燥した敷料をたっぷり敷きましょう。

※子牛の体が濡れることや子牛の体が冷えることを防いでくれます。

対策③ 牛を暖めましょう。

※カーフジャケット（市販のもの、手作りのもの、大人用のベスト等）、ネックウォーマー、使い捨てカイロ（ストッキングに入れて体に装着、ジャケットに貼る等）、ヒーターなどの使用が効果的（ヒーター使用時はやけどに注意してください）

対策④ 飲み水が冷たすぎないようにしましょう。

※飲み水の温度が冷たいと子牛の体温が奪われてしまうので、ぬるま湯などで飲み水を温めましょう。

### ② 換気をしましょう

防寒対策のために牛舎を閉め切ったままにすると、牛舎内に湿気、アンモニアガス、ほこり等がこもるため畜舎環境が悪くなります。特にアンモニアガスに晒されると喉や気管の粘膜が損傷し、ウイルス感染や細菌感染が起こりやすくなり、呼吸器病発生のリスクが高まります。牛舎内で目や鼻に刺激を感じる時はアンモニアガスがこもっている状態です。床から10cmの高さでもアンモニア臭を感じない環境が理想です。隙間風が直接牛に当たらないように注意しながら南や東側の窓は日中開放し、牛舎内の湿気やアンモニアガス等を排出しましょう。また、子牛は成牛に比べ頭の位置が床に近いため、高濃度のアンモニアガスに晒されます。子牛がいる牛舎ではしっかりと換気を行いましょう。

### ③ 飲水量不足に気を付けましょう

冬期は寒さの影響で飲水量が低下します。飲水量が低下すると、採食量低下や尿石症の発生の可能性が高まります。飲み水の凍結防止や水を少し温めて飲水量の増加を図るなどの対策をとり、牛が十分に飲水できるようにしましょう。

### ④ 密飼いを避けましょう

密飼いはストレスとなり万病の元です。寒さのストレスに密飼いのストレスが加わると病気の発生率がぐんと高まるだけでなく、感染症であれば次々と広がっていくので注意しましょう。

冬期の管理を再確認し、寒い冬を元気に過ごせるように努めましょう。

(公社) 中央畜産会からのお知らせ

畜 産 映 像 情 報

がんばる!畜産!9

畜産映像情報

畜産現場の“今”を30分の番組にしました！

映像を各種研修会、セミナーにご活用ください！

配信中の内容：ヨーロッパアルプ酪農の力とチーズ街道  
オーストリア・ブルゲンツアーヴァルト/  
日本畜産学会100周年 第132回大会総  
集編／国際養鶏養豚総合展2024 総集編  
ほか



スマートフォンからはこちら  
パソコンからはこちらで検索  
がんばる畜産

(公社) 中央畜産会 経営支援部（情報） TEL03-6206-0846



## &lt;畜試便り&gt;

## 行動モニタリングセンサによる初回発情検出の有無と乳成分の関連について

宮城県畜産試験場

乳用牛では、分娩直後から増加する泌乳量に必要なエネルギー要求量に対して、乾物摂取量の増加が追い付かずエネルギー不足に陥り、無発情や発情兆候が弱い状態となり、発情の見逃しにつながることがあります。本稿では、発情発見の補助として行動モニタリングセンサ（牛の首に装着し、行動量の変化から発情を検知するICT機器）を用い、ICTによる初回発情検出の有無および乳成分の関連について調査した内容を報告します。

調査は分娩後60日までの初回発情について、ICTによる初回発情検知の有無を基準として、対象となる牛を4区に分類し、発情発見と受胎率の向上を目的として実施しました。分類は以下の通りです。

A区：初回発情が60日以内で、ICTで検出があった区、B区：初回発情が60日以内で、ICTで検出が無かった区、C区：初回発情が60日を超えてICTで検出があった区、D区：初回発情が60日を超えてICTで検出が無かった区（今回該当する牛はいませんでした）。

以上の4区について、人によって確認された初回発情に対するICTの発情発見率、乳成分（乳脂率、乳タンパク質率、P/F比）、繁殖成績（分娩後初回発情日数、分娩後受胎日数、授精回数）の項目で検討を行いました。

人によって確認された初回発情に対する、ICTによる初回発情発見率は、初回発情が60日以内に回帰したA区およびB区で38%、初回発情が60日を超えたC区で100%となりました。一方、授精回数や受胎日数等の繁殖成績に有意な差は認められませんでした。以上の結果から、分娩後の発情回帰の早さと受胎とは、必ずしも関連しているわけではないことが示唆されました。また、乳成分については、乳脂率においてC区はA区と比較して有意に高い値となりました（図1）。初回授精の遅れたC区の乳脂率において最も高い値を示したことから、乳脂率は初回発情の回帰の遅延を予測する指標になる可能性が示唆されました。

本調査では、初回発情が60日を超えて遅延した区

においてはICTによる発情発見の有効性が示唆されたものの、初回発情が60日以内に回帰した区においてはICT未検出例もあり、発情行動の弱さや栄養状態が関与する可能性が示されました。

最後に牛の栄養状態を把握する指標となる、乳脂率および新しい情報である脂肪酸組成についてご紹介します。乳脂率は、3.3%～4.9%が適正とされ、3.3%を下回ると粗飼料の食い込みが不十分な可能性が考えられ、逆に4.9%を上回ると粗飼料、配合飼料のどちらも十分に食べられていない可能性が考えられます。DnM（デノボ脂肪酸）は粗飼料由来の脂肪酸であり、28%以上であるかが粗飼料の食い込みを確認する指標となります。PrF（プレフォーム脂肪酸）は牛自身の体脂肪が乳汁に移行した脂肪酸であり、数値が40%より高いと削瘦を示す指標となります。脂肪酸組成に関連する項目は牛群検定の乳成分速報から閲覧できますので、日頃の牛群管理にぜひ活用してみてください。

（酪農肉牛部 乳牛チーム 羽鳥 連）

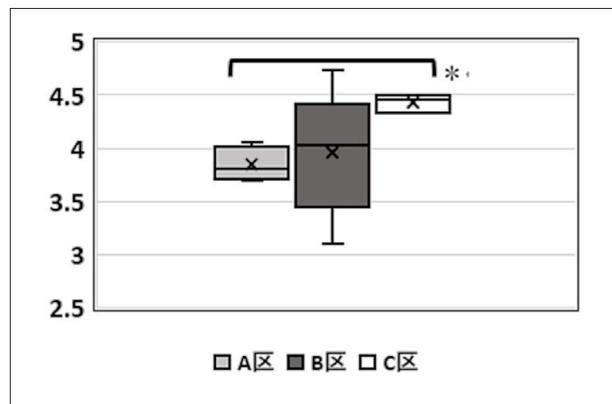


図1 乳脂率 (%)

# 国産の牛乳、お肉、卵を食べてまもろう

畜産物を生産するためのコストが上昇しています。  
皆様に国産の畜産物を食べていただくことが生産者の応援に繋がります。

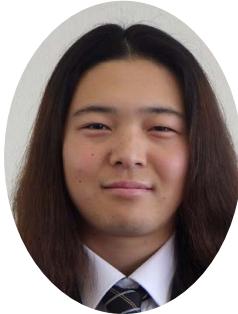
公益社団法人 中央畜産会 × 宮城県畜産協会

全国の畜産会組織は地方競馬の売上の一部を活用して、日本の畜産振興に取り組んでいます。

## 〈農業大学校生の抱負〉

## 農業への志

宮城県農業大学校 畜産学部 2学年 山田 佳



私の家では、祖父母が和牛の繁殖と稲作の複合経営を行っています。幼少のころから種まきや田植え、稲刈りなどを手伝っていたため、農業は身近な存在でした。しかし私は動物が好きであったため、お米より牛に興味があり、祖父母の家へ行き牛と触れ合うことが楽しみでした。高校進学時に進路に迷っていると、祖父から家業を継いでほしいと頼まれたため、宮城県小牛田農林高等学校へ進学し農業の道を選びました。高校では畜産専攻に入り、実習で牛や豚と触れ合い、友達と協力して作業することの楽しさを学びました。

祖父母から経営を引き継ぐのであれば、さらなる知識と技術、経験が必要になると  
思い宮城県農業大学校に進学しました。1学年では和牛繁殖農家さんの下で約1か月間の先進農業体験学習  
を行い、飼養管理などを学ぶことができました。2学年では毎朝の実習や削蹄などの専門的な授業に励みな  
がら、卒業論文では毛刈りによる和牛子牛の暑熱・ヨロイ対策に取り組み、学部代表に選出されました。資  
格関係では、大型トラクターや牽引、家畜人工授精師などを取得することができました。

私は将来、最終的には祖父母の和牛繁殖経営を引き継ぎたいと考えています。しかし、就農前に畜産関係の会社に就職して社会経験を積み、地域の方々や畜産業界の諸先輩方と交流を深めることで人脈を広げ、学び続ける道を選択しました。目標達成のために、残り僅かな学生生活を楽しみつつ、今できることに挑戦し続けたいです。

Digitized by srujanika@gmail.com

## 令和7年度肉用牛研修会開催のお知らせ

## 一般社団法人 宮城県畜産協会

NOSAI宮城との共催により開催しています標記研修会を下記のとおり開催する事といたしましたので、近隣生産者等お誘い合わせのうえ経営技術スキルアップのため、是非ご参加ください。

記

- ◆ 日 時：令和8年2月27日（金） 13：15～15：30
  - ◆ 場 所：パレットおおさき（大崎生涯学習センター） 多目的ホール  
大崎市古川穂波三丁目4番20号 電話：0229-91-8611  
※駐車場スペースが限られているため、出来るだけ乗合せでの来場にご協力をお願いします。
  - ◆ 講 演：演題：「NOSAI宮城で実施している定期繁殖検診」  
講師：宮城県農業共済組合 中央家畜診療センター 兼 家畜診療研修所  
所長 川名 晶子 先生

- ◆ 參集範圍：繁殖牛飼養農家、畜產關係者

- ◆ お問合せ先：

(一社) 宮城県畜産協会 本 所

TEL : 022-298-8473

NOSAI 宮城 第二事業部家畜診療課

TEL : 0229-87-8286



### (経営支援課)

## 馬事畜産振興の活動報告

### 宮城県地域畜産振興対策協議会

地方競馬の普及啓発を図ることを目的に、馬事畜産振興推進事業（地方競馬全国協会委託）において、以下のとおり普及・啓発活動を行いました。

#### 馬事畜産振興現地視察検討会

令和7年11月25日（火）、岩手競馬水沢競馬場において、現地視察検討会を開催しました。

JR仙台駅東口より貸切バスで出発し、車中にて地方競馬の概況説明を行いました。現地視察では、指定席で第1から第7レースを観戦しました。到着時は霧に包まれていたコースも、次第に視界が良くなり、和やかな雰囲気で競馬観戦を楽しみました。目の前を疾走する競走馬の迫力を体験した参加者からは、「初めて馬を間近で見て興味が湧いた」「盛り上がるレースだった」等の声を頂き、有意義な検討会となりました。



事務局：(一社) 宮城県畜産協会

## 価格安定対策事業の発動状況について

一般社団法人 宮城県畜産協会

#### ◎肉用牛肥育経営安定交付金（牛マルキン）の交付金単価

販売月	肉専用種（宮城県）	交 雜 種（全国）	乳 用 種（全国）
令和7年10月（概算払）	(14,488.4円)	—	(2,717.3円)

## 訂正とお詫びについて

令和7年11月20日発行畜産みやぎ第335号、「令和7年度宮城県総合畜産共進会（肉豚の部）盛会裡に終了」の受賞者内容に相違がございました。

訂正内容は以下のとおりとなります。大変申し訳ございませんでした。

正：【最優秀賞2席】 東北農政局長賞 栗原市 株式会社サイボクファーム  
誤：【最優秀賞2席】 東北農政局長賞 加美町 渡邊 耕並

感動を呼ぶ製品をめざして  
**ORION**  
ハードシステムとソフトシステム  
(ビフォー＆アフターサービス) で  
あなたの経営を応援。  
これがオリオンの思想です。

**中央オリオン株式会社**  
宮城営業所 〒989-6226 大崎市古川新田字泉屋敷59番4号  
TEL : 0229-26-4330 FAX:0229-26-4338

農業共済新聞

次の一歩を未来につなげたい

総合印刷企業  
株式会社 **東北プリント**

〒980-0822 仙台市青葉区立町24番24号  
TEL 022-263-1166 FAX 022-224-3986  
E-mail mail@tohokuprint.co.jp

やのくネットワーク  
**NOSAI**  
宮城県農業共済組合  
TEL 0229-87-8281

## — 賀 春 —

宮城県農業協同組合中央会長	佐野和夫
全国農業協同組合連合会宮城県本部長	都築祐一
宮城県農業共済組合長	大場照彦
(公社)みやぎ農業振興公社理事長	江畠正徳
みやぎの酪農農業協同組合代表理事組合長	伊藤一成
宮城県酪農農業協同組合代表理事組合長	上野栄公
宮城県家畜商協同組合理事長	千葉正一
(公社)全国和牛登録協会宮城県支部長	高川信幸
宮城県ホルスタイン協会長	半澤善幸
宮城県ホルスタイン改良同志会長	千葉義文
宮城県家畜人工授精師協会長	大槻謙喜
宮城県養豚振興協会長	石川輝芳
(一社)宮城県畜産協会長	佐野和夫



## 宮城県動物薬品器材協会(会員名)

**(株)アスコ宮城営業所**  
仙台市泉区泉中央4丁目19-1 TEL022-347-4138

**M P ア グ ロ (株)**  
仙台支店 仙台市太白区富沢南二丁目8-9 TEL022-245-4306

**小田島商事(株)**  
大崎市古川清水字周防10-1 TEL0229-26-4567

**(株)アグロジャパン南東北営業部宮城チーム**  
仙台市泉区八乙女3-3-1 TEL022-343-5301